

# 17世紀後半における『メルキュール・ギャラン』の服飾特集記事

Articles on fashion featured in *Mercurre Galant* in the late 17th century

田邊 しずか\*  
Shizuka TANABE

**要約** 1672年に創刊したフランスの定期刊行物である『メルキュール・ギャラン』は、貴族に関する様々な話題を特集した記事を掲載していた。服飾はそのような話題のひとつであった。本稿では、同誌に掲載された服飾特集記事に関する調査の結果を示す。特に、同誌における服飾特集記事の位置づけを明らかにする。調査の結果、同誌における服飾特集記事の割合は、非常に少ないことが分かった。しかしながら、特に1680年代には、定期的に服飾特集記事を掲載する編集方針の基、同記事は多く掲載されていた。服飾特集記事のほとんどは、上流人の服飾について装飾や素材まで詳しく報じている。また、男性と女性ともに服飾が紹介されていたことから、同誌の読者に性差はなかったことが考えられる。そして、いくつかの記事では版画を伴って服飾が紹介されていた。したがって、同誌は説明文と視覚的要素を組み合わせた服飾記事を掲載した初期の定期刊行物と言うことができるだろう。

**キーワード**：フランス、『メルキュール・ギャラン』、17世紀後半、宮廷服

**Abstract** *Mercurre Galant*, a French periodical first published in 1672, featured articles on various topics related to the nobility. Fashion was one of these topics. The present paper presents results of research on articles on fashion featured in the periodical. In particular, it reveals their status in the periodical. Results indicated that these articles accounted for an extremely small percentage of articles in *Mercurre Galant*. However, many articles (especially in the 1680s) appeared under an editorial policy and ran regularly. Most of these articles detailed upper-class fashion, including descriptions of adornments and materials. Given that both men and women appeared in the magazine, there may have been no gender differences in the periodical's readership. A few articles described fashion and presented engravings. Thus, the periodical may be deemed the first magazine to feature fashion articles by combining explanatory text with visual elements.

**Key words** : France, *Mercurre Galant*, Late 17<sup>th</sup> century, Court dress

## 1. 序

『メルキュール・ギャラン』は1672年に作家のジャン・ドノー・ド・ビゼ Jean Donneau de Visé (1638-1710)によってパリで発行された定期刊行物である<sup>1</sup>。同誌にはその時折の宮廷人の装いを伝える記事が掲載されていることもあり、服飾史研究において重要な史料であることは知られている。「最新の

モード」Modes nouvelles というタイトルがつけられた服飾特集記事は、最も古くは1674年に刊行された第6巻に掲載されている。

また、フランス服飾史研究では、同誌における服飾の話題が部分的には引用されてきた。たとえば、1677年の同誌の記事には貴族に向けた「優雅さとは、ヘアスタイル、履き物、下着の美しさやヴェストのなかにある」という指南<sup>2</sup>や、1672年、1678年、1682年にはモード商に向けた宣伝広告や版画の掲載がある<sup>3</sup>という指摘もある。

『メルキュール・ギャラン』に関する研究は、ド

\* 家政学部被服学科学術研究員  
Faculty of Human Sciences and Design, Department of  
Clothing, Academic researcher

ノー・ド・ビゼヤ同誌を主題とした包括的な書誌学的研究<sup>45</sup>や、同誌やその関連刊行物である『メルキュール・ギャラン特別号』*Extraordinaire du Mercure Galant* を主な史料として17世紀後半のファッションの流行を経済の視点から論じたもの<sup>6</sup>、そして18世紀における同誌と女性のファッションに言及したもの<sup>7</sup>があるが、本研究では、1672年から1700年に刊行された『メルキュール・ギャラン』に掲載された服飾特集記事に関する調査結果を示し、同誌の性質を踏まえながら、同誌における服飾特集記事の位置づけを明らかにする。

### 1-1 史料と方法

『メルキュール・ギャラン』の目次をみると、「最新のモード」をはじめとし、タイトルに *mode* という単語が使われている記事がしばしば登場する。その多くは服飾を特集する記事である。そこで、同誌における服飾特集記事として、本研究ではモード (*mode*) という単語をタイトルに含む記事 (以下、モードの記事) を抽出する。

しかしながら、当時 *mode* という単語は服飾の流行という意味以外にも様々な意味をもっていた<sup>8</sup>。そこで、タイトルで記事を抽出したのち、その本文を確認し、服飾記述があるもののみをモードの記事として本研究では扱う。

また、モードの記事は17世紀の『メルキュール・ギャラン』において比較的多くみられる。したがって、本研究では1672年から1700年までを調査の対象とする。

以上のように抽出したモードの記事は、まず掲載頻度やボリュームから同誌における位置づけを数量的に明らかにし、次に記事の内容から同誌がどのように服飾を伝えていたのかを明らかにする。

### 1-2 本研究で扱う史料

本研究の史料の閲覧には、近年資料のデジタル化が著しいフランス国立図書館 (*Bibliothèque nationale de France*) のデジタルアーカイブのガリカ (*Gallica*)<sup>9</sup> を用いる。また、ガリカにおける欠号を補うために、17世紀から18世紀にかけてフランスで発行された定期刊行物の所蔵とデジタルアーカイブの URL が一覧になっている web サイトの「*Le Gazetier Universel*」<sup>10</sup> を用いる。同サイトはリュミエール・リヨン第2大学教授<sup>11</sup>であるレノー・デニス Reynaud

Denis によって2009年にまとめられたもので、アンシャン・レジーム期にどれほどの刊行物が発行されていたのかが記録されている。

## 2. 『メルキュール・ギャラン』の性質

### 2-1 年譜

ドノー・ド・ビゼによる同誌の刊行は、1672年に『ル・メルキュール・ギャラン』*Le Mercure Galant* という名称から始まった。創刊号には、「1672年5月25日に最初の印刷が完了した」と記されている<sup>12</sup>。この頃の刊行頻度は不定期で、1672年から1674年までに6点刊行されていたが、1675年と1676年は休刊している。

また、1677年1月から『ヌーヴォー・メルキュール・ギャラン』*Nouveau Mercure Galant* という名称で刊行され、1678年1月には『メルキュール・ギャラン』*Mercur Galant* という名称で刊行されるようになった。ドノー・ド・ビゼの死後は、1710年6-8月号から喜劇作家のデュフレニー Charles Dufresny (1657-1724) による刊行が始まる。次いで1714年には編集者であったルフェーヴル Hardouin Le Fevre de Fontenay (1686頃-1736頃<sup>13</sup>) に受け継がれ、『メルキュール・ド・フランス』*Mercur de France* と改称される。

『ジャーナル辞典』*Dictionnaire des journaux* によれば、ドノー・ド・ビゼによる刊行の同誌の発行点数は1672年5月号から1710年5月号の間では492巻、デュフレニーによる刊行の1710年6、7、8月合併号から1714年4月号までは44巻が刊行されていたとされる<sup>14</sup>。この数字には、月ごとの刊行に加え、政治や外交、宮廷における婚姻など重大な出来事のための臨時増刊、さらに特別号 (*Extraordinaire*)、外交問題収録号 (*Relation*)、時事問題収録号 (*Affaires du temps*) といった名称をもつ関連刊行物も含まれている。

### 2-2 内容

『メルキュール・ギャラン』の目次をみると、宮廷人の婚姻や訃報、外交、行事などのあらゆるニュースや、詩や音楽などの文化情報、なぞかけといった娯楽など、内容には宮廷の情報が事細かに含まれていることが分かる。具体的にどのような記事が掲載されているのかを示すために、まず創刊号である1672年『ル・メルキュール・ギャラン 第1巻』の

目次を確認し、具体的な記事の内容を述べたい。

同巻の目次は巻頭に位置し、9頁にも及ぶ。記事のなかでも、貴族に関する記事の多さは同誌の特質と言えるだろう。たとえば、婚姻に関しては「裁判長の息子とシャルコ嬢の結婚」<sup>15</sup>、訃報には「大法官殿の訃報とその賛辞」<sup>16</sup>ほか、「コースタン侯爵殿への賛辞」<sup>17</sup>や「ルーヴォワ侯爵殿への賛辞」<sup>18</sup>など貴族個人に関する話題が目立つ。また、文芸界の話題としては、「ラシーヌ殿の悲劇『バジャゼ』に関する発言」<sup>19</sup>、「『女学者』と題されたモリエール殿の喜劇に関する発言」<sup>20</sup>、「『ジュルナル・デ・サヴァン』への発言」<sup>21</sup>といった記事がみられる。さらに、「スペイン方面のガスコーニュに向けた手紙、デスリエル侯爵夫人からL.T.伯爵へ」<sup>22</sup>のような書簡文学は、回想録(Mémoire)と並ぶ同時代に流行した文学の形式のひとつである。そして、周辺国との関わりを示す記事として「ヴィラルール侯爵のマドリッドへの公的な入場」<sup>23</sup>や、小話(Histoire)として「女兵士の話」<sup>24</sup>など、同誌の記事が扱う話題は多岐に渡っていることがわかる。

第1巻では詩に関する記事はみられないが、1674年に刊行された第6巻にはソネ(Sonnet)やマドリガル(Madrigal)といった詩篇も掲載されている<sup>25</sup>。

以上のような話題に加えて、服飾に関する記事は、ドノー・ド・ビゼが版画家とともに最新のファッションを報じる動きがあったことや、次号の服飾特集記事の予告をして、読者に継続的に読ませる工夫が成されたことは既に指摘されている<sup>26</sup>。

### 2-3 読者

『メルキユール・ギャラン』の読者層については、前述の通り、宮廷の情報が事細かに含まれていることから、フランスの宮廷に出入りする人々や、地方の貴族、フランス語を読むことができる諸外国の貴族たちに読まれていたと推測することはできる。

フランスの貴族であるセヴィニエ侯爵夫人マリー・ド・ラビュタン＝シャンタル Marie de Rabutin-Chantal, marquise de Sévigné (1626-1696)は、結婚した娘フランソワーズ・マルグリット Françoise-Marguerite de Sévigné (1646-1705)に向けた書簡のなかで『メルキユール・ギャラン』について言及している。以下はその一文である。

セヴィニエ夫人からロシエにいるグリニャ

ン夫人へ 1680年8月4日日曜日 私たちは明日レンヌに行きます。私は、私たちがこれから待ち受けることのために、これほどまでに大きな準備をしています。私は、私たちの動向を『メルキユール・ギャラン』のなかで詳しく書かれることを望んではおられません。私たちのお付き合いに、この小さな旅を全く邪魔されたくない、ということが大いに必要なことであるとあなたは知っていますでしょう。<sup>27</sup>

このように、セヴィニエ夫人がレンヌへの旅路を事細かに紹介されることを望んでいない理由は、同誌が宮廷人の個人名を挙げて、その装いや動向を詳しく報告しているからであると考えられる。

たとえば、「ブルボン公爵の結婚の細事にわたる全てに関すること」<sup>28</sup>という記事では、1685年のブルボン公爵 Louis III de Bourbon-Condé (1668-1710)とナント令嬢 Louise Françoise de Bourbon (1673-1743)の婚礼について書かれている。

ナントのご令嬢はひだの付いた銀のレースで飾られ、全体にルビーとダイヤモンドをちりばめた、銀のプロケードの衣服を身に付けている。<sup>29</sup>

このように、同誌をみると、しばしば宮廷人に対して、彼らの服装も詳しく取り上げていることがわかる。

また、アカデミー・フランセーズの会員であり、著作家<sup>30</sup>のフランソワ＝ティモレオン・ド・ショワジー François-Timoléon de Choisy (1644-1724)の回想録では以下のような言及もある。

(ティモレオンの書齋に友人や司祭が集まって)一同は席に着き、世間話を始めました(司祭様は世間話がなによりも好きなのです)。テーブルにはいつも「ガゼット」紙、「ジュルナル・ド・サヴァン」紙、「トレヴオー」紙、「メルキユール・ギャラン」紙などが置いてあり、各人が思うがままに手にとることができるのです。<sup>31</sup>

このような記述は、パリで生活をするエリート層に、サロンのなかで同誌が読まれていたことを示している。17世紀の後半には王権による保護と統制のもとで、エリート層の文化が発展し、『メルキユール・ギャラン』も文芸・科学情報を独占的に掲載す

の特権を得ていた。このような発展の土壌として同時代に大小のサロンが増加していることは既に指摘されている<sup>32</sup>。加えて、ティモレオンの回想録では以下のような言及が続く。

わたくしは先月の『メルキュール・ギャラン』紙に載っていた小断を読むように司祭様に勧めました。そこには、さる身分の高い貴族で、生来美しいことから女になりたがり、奥様と呼ばれるのを喜び、金の美しい服を着、スカートを穿き、イヤリングを下げ、つけぼくろを付け、言い寄る男さえいるという話が載っていたのです。<sup>33</sup>

ティモレオンの回想録は、自身が女装して生活していたことから、回想の年代を明らかにしておらず、またフィクションも織り交ぜながら書いている可能性も留意しなくてはならない。しかし、このような言及からは、同誌がゴシップの性質を含む刊行物であったことも伺える。

### 3. モードの記事のタイトル、掲載頻度、頁数

1672年から1700年のモードの記事のタイトルの内訳を表1に示す。服飾に関する記述がみられる記事には主に「最新のモード」Modes Nouvelles というタイトルが付けられていることがわかる。次に多いのは、「モード」Modes というタイトルの記事で、3点みられる。また、そのほかのタイトルの記事(「最新モードに関する記事」Article touchant les Modes nouvelles, 「モードに関する記事」Article des Modes, 「あらゆるモードに関する会話」Conversation sur toutes les Modes, 「最新のモードのリスト, 男女それぞれの服装や家具」Liste des Modes nouvelles, tant pour les habillemens de l'un & de l'autre Sexe, que pour les Ameublemens, 「最新のモード(単数)」Mode Nouvelle, 「モードに対するパラティーヌの苦情, 会話形式で」Plaintes des Palatines contre la Mode, Dialogue は1点ずつみられる。

次に、モードの記事の掲載年月、タイトル、頁数、掲載号の総頁数を表2に示す。

すでに表1に示したように、1672年から1700年までにおけるモードの記事は、33点確認できており、1672年の『ル・メルキュール・ギャラン』の創刊から1674年までは年に1点、『ヌーヴォー・メルキュール・ギャラン』が創刊した1677年、『メルキュール・ギャラン』

Table 1 Classification of “mode articles”

Modes Nouvelles	24 点
Modes	3 点
Article touchant les Modes nouvelles	1 点
Article des Modes	1 点
Conversation sur toutes les Modes	1 点
Liste des Modes nouvelles, tant pour les habillemens de l'un & de l'autre Sexe, que pour les Ameublemens	1 点
Mode Nouvelle	1 点
Plaintes des Palatines contre la Mode, Dialogue	1 点
1672年から1700年の「モードの記事」の合計	33 点

ル・ギャラン』創刊の1678年から1689年までの間は、1685年以外毎年掲載されている。

1680年代までは、同記事は多い年でも年間4点の掲載があった。1686年6月号の「最新のモード」の書き出しで「私は、あなた方に対して毎年2回モードの記事を書くことに慣れた」<sup>34</sup>と述べられているものの、1690年からモードの記事はほとんど見られなくなり、1693年に1点、1699年は突出して5点確認できているのみで、毎年欠かさず定期的に宮廷のモードは伝えられていなかったようである。

モードの記事の頁数は短いものは2頁から46頁まで幅があるが、10頁より短いものがほとんどで、頁数の平均値は約9頁である。また、『メルキュール・ギャラン』の総頁数に対するモードの記事割合は、1パーセント未満の記事(1680年11月号, 1687年10月号, 1688年1月号, 1689年10月号, 1699年4月号)から10パーセントを上回る記事(1673年第3巻, 1677年7月号)までであるが、その平均値は約3パーセントである。

以上のことから、モードの記事は必ずしも毎年掲載されているわけではなく、不定期であったことが明らかになった。創刊から多数掲載されている結婚や訃報などの貴族個人の話題に比べると、同誌における割合は極めて僅かであることが伺える。

### 4. モードの記事の内容

モードの記事掲載年月、タイトル、頁数、内容を表3に示す。本項では同記事の内容と構成から、特徴的な性質を5つ挙げて、服飾をどのように伝えていたのかを明らかにする。

Table 2 Volume in which a “mode article” appeared, title, page number, pages, total pages in the volume, and percentage of total pages

年	発行月 または 巻号	「モードの記事」タイトル	「モード の記事」 掲載頁	「モード の記事」 頁数	掲載号 の 総頁数	総頁数に 対する「モード の記事」の割合
1672年	TOME 1	Liste des Modes nouvelles, tant pour les habillemens de l'un & de l'autre Sexe, que pour les Ameublemens	pp.275-285	11	340	3.24%
1673年	TOME 3	Conversation sur toutes les Modes	pp.283-328	46	376	12.23%
1674年	TOME 6	Modes nouvelles	pp.67-78	12	283	4.24%
1677年	7月	Modes nouvelles	pp.125-140	16	149	10.74%
1678年	10月	Modes nouvelles	pp.361-378	18	378	4.76%
1678年	12月	Article des Modes	pp.314-317	4	320	1.25%
1679年	5月	Modes nouvelles	pp.351-356	6	360	1.67%
1680年	5月	Modes nouvelles	pp.346-351	6	351	1.71%
1680年	11月	Modes nouvelles	pp.346-348	3	349	0.86%
1680年	12月	Modes nouvelles	pp.330-334	5	335	1.49%
1681年	4月	Modes nouvelles	pp.374-377	4	377	1.06%
1681年	5月	Modes nouvelles	pp.376-383	8	383	2.09%
1681年	12月	Modes nouvelles	pp.329-337	9	338	2.66%
1682年	10月(part1)	Modes nouvelles	pp.275-280	6	348	1.72%
1682年	11月	Modes nouvelles	pp.368-371	4	373	1.07%
1683年	6月	Modes nouvelles	pp.337-345	9	348	2.59%
1684年	9月	Modes nouvelles	pp.309-316	7	321	2.18%
1684年	12月	Modes	pp.307-311	5	321	1.56%
1686年	6月	Modes nouvelles	pp.323-333	11	337	3.26%
1687年	6月(part1)	Modes nouvelles	pp.306-326	21	335	6.27%
1687年	10月	Modes nouvelles	pp.374-376	3	384	0.78%
1687年	11月	Plaintes des Palatines contre la Mode, Dialogue	pp.21-45	25	304	8.22%
1688年	1月	Modes nouvelles	pp.250-251	2	253	0.79%
1688年	5月	Modes nouvelles	pp.288-312	25	330	7.58%
1688年	10月(part1)	Mode nouvelle	pp.237-241	5	328	1.52%
1688年	11月	Modes nouvelles	pp.285-291	7	337	2.08%
1689年	10月	Modes nouvelles	pp.249-251	3	336	0.89%
1693年	9月	Modes	pp.201-211	11	334	3.29%
1699年	4月	Article touchant les Modes nouvelles	pp.274-275	2	276	0.72%
1699年	5月	Modes nouvelles	pp.261-266	6	281	2.14%
1699年	6月	Modes nouvelles	pp.244-250	7	278	2.52%
1699年	7月	Modes nouvelles	pp.272-275	4	284	1.41%
1699年	11月	Modes	pp.256-258	3	290	1.03%
			平均値	9.52	325.36	3.02%

#### 4-1 男子服飾と女子服飾に分けて解説する記事

モードの記事の多くに見られる構成は、前書きの後、当世の服飾に関して男子と女子に分けて、色や素材、装飾品まで詳しく記載するものである。1678年10月の「最新のモード」の内容は既に論じられている<sup>35</sup>ことから、本稿ではこのような記事の具体例を示すために、1679年5月号の「最新のモード」と1680年12月号の「最新のモード」の文章を引用したい。

まず、1679年5月号の「最新のモード」では、前書きの後、男子服と女子服に分けて、暖かくなった季節を感じさせるような、服飾に関する解説がある。

記事は、新しいモードについて話すことを断ってから、2頁ほど女子服に関する話題が続く。「美しい布は、茶色の地に金や銀があり、大多数の上流の女性たちが身に付けている」<sup>36</sup>というような始まりで、アンビジブル (Invisible) と呼ばれる人気の布があることを報じている。また、「金と銀の花模様が付いた茶色のガーゼや、大きな枝とともに自然の花々が描かれたスカートやマントも多くみられる」<sup>37</sup>といった女子服の流行を伝えている。

記事はさらに「男性の衣服について話すことは、より難しいわけではない」<sup>38</sup>という書き出しで、男子服に関する話題が3頁ほど続く。身体に沿った上着のジュストコールの着用が冬から続いていることを指摘してから、ジュストコールの下に着用されたヴェストや、靴下、靴、帽子、リボンといった、男子服飾の全体像を示すような説明がある。また、「人々が宮廷で着ているヴェストはジュストコールより短い。しかしながら、パリの街では、人々はより長いヴェストを身に着けている。そのヴェストが白であるときはいつでも、とても見苦しい印象である」<sup>39</sup>というような文章は、読者がより洗練された宮廷の装いを目指しているかのような報じ方である。

次に、1680年12月号の「最新のモード」では、前書きの後、男子服と女子服に分けて、冬の衣服について解説している。

まず、「流行についてあなたたちに話す必要がある」<sup>40</sup>と断ってから、上流男性のモードに触れている。「最も優れた男性の装いはブランデンブルクとマントから成り、それらは極めて贅沢なものである。マントの中でも最も優れた部分は刺繍である」<sup>41</sup>とあり、外套であるブランデンブルクやマントの説明がさらに続けられる。「ブランデンブルクやマントは

ブリュッセルのキャムロという生地で作られており、グレーもしくは緋色で、色の異なるパーンあるいはプラッシュの裏地が付いている。火色は最も流行している色である。ブランデンブルクも、大きなボタンホールに刺繍とはまた別に刺繍されている。ボタンホールに刺繍をしない人々は、金のポワン・デスパニュー (スペインレース) を使ったボタンホールを付けている。キツネの毛皮の裏地が付いた、オランダの火色で無地の毛織物でできたブランデンブルクもみられる」<sup>42</sup>というように、当時流行している服飾について、色や装飾の種類までも詳しく述べられている。

加えて、男子服飾の全体像についても解説がある。「衣服 (habit) に関しては、淡褐色の色の毛織物の無地の布がよく使われている。そのラシャは驚くほど美しく、2重になっている。この衣服のなかには、キャノンあるいは今日透かしのあるポワン・ド・フランス (フランスレース) のような装飾と同様に、刺繍されているものがある。人々はまた、美しい毛織物の衣服を、折り返された長靴下とともに身につけている。衣服の裏地はあらゆる色のものがあり、格子縞のパーンという生地で作られている。それらは贅沢な細い糸の絹のプロケードでできたヴェストと一緒に身につけられる」<sup>43</sup>というように、当時の上着、ヴェスト、キュロットの3つ揃いの服飾について説明していることがわかる。

その後、男子服の記述がさらに1頁ほど続いた後、「わたしは女性の衣服に関して知る」<sup>44</sup>という書き出しで、女子服飾についての3頁に亘る解説がある。男子服と同様に、女子服にも格子縞が流行していることを指摘してから、格子模様のある布に金や銀が使用されていることについて述べている。また、袖の装飾については「刺繍が非常に流行していたが、それはもはや流行しておらず、多くの飾り糸やリボンの結び目で装飾されている」<sup>45</sup>といった流行の変化がある。そして、女子服の話題の最後には、「女性たちは部屋着 (Robes de Chambre) の代わりに、イノサント (Innocentes) と呼ばれる大きなローブを着る」<sup>46</sup>というように、部屋着の流行についても触れてから、記事は終わる。

以上のように、『メルキユール・ギヤラン』で見られるモードの記事は男子服と女子服を同様に、装飾や素材までも、詳しく報じていたものの、記事のなかには、1680年11月号の「最新のモード」のよう

に、女子服についての解説の後、「男性の衣服に関しては、新しいものは全く何もない」<sup>47</sup>と述べているものもあり、必ずしも毎回双方の解説があるわけではなかったようである。

このような構成はほとんどが「最新のモード」というタイトルの記事でみられるが、1684年の「モード」も同様の構成である。

#### 4-2 性別ごとに分けていない服飾記事

1673年第3巻の「あらゆるモードに関する会話」をはじめとするいくつかのモードの記事は、前述のような、男子服と女子服に分けて解説する構成ではなく、素材や装飾品を話題の中心にして、それらがどのような装いに使用されているのかを説明している。

同記事は46頁にも及び、様々な服飾品を取り上げている。たとえば、フランス産の絹織物やレースといった自国の産業に関わる服飾品だけでなく、中国の(de la Chine)という言葉がついたマントや絹の靴下、スペインレース(Dentelles d'Espagne)やフランドルレース(Point d'Angleterre)といった服飾の外国産好みも垣間見ることができている。

#### 4-3 1つの服飾品みを扱う記事

1687年10月号の「最新のモード」は3頁に亘ってフランス北東部のスダンで作られたフランスの毛織物(drap de France)に関する宮廷と服の話題が述べられている。

1687年11月号の「モードに対するパラティーヌの苦情、会話形式で」という記事は会話形式(Dialogue)であり、パラティーヌ皇妃のアンヌ・ド・ゴンザグ Anne Marie de Gonzague de Clèves (1616-1684)が流行させた婦人用の毛皮の襟巻きであるパラティーヌとモードを擬人化し、会話をさせている。

また、1688年10月号第1巻の「最新のモード」は、タイトルが単数系になっているが、内容もタイトルに準じて、マフ<sup>48</sup>の話題のみを扱っている。

#### 4-4 モード版画の説明

1693年9月の「モード」では、前書きの後、女子服と男子服のモード版画の解説が設けられている。

「画家のサン＝ジャンは、流行の盛装をした非常に美しい人物画を公開した。6つの全く新しい情報が彫られている。それは、4人の女性たちと2人の

男性たちである」<sup>49</sup>と述べてから、最新のモード版画のタイトルと、そのモード版画に書かれた服飾について説明している。たとえば、いちばん初めに紹介されている『部屋着を着た上流女性』では、のんびりと女性が座った姿で描かれている。「この、部屋着はベルト無しで垂れ下がっている」<sup>50</sup>との説明から、「彼女は Rspirant と呼ばれるマルセイユのコレットを着用しているが、これは流行のものである。なぜなら、このコレットは大きく開いているからである」<sup>51</sup>といった、服飾品の名称を挙げて、部屋着における流行の装いを述べている。

#### 4-5 服飾以外の流行の話題も含む記事

本研究で抽出したモードの記事のうち、服飾の話題以外にも含んでいるのは、1672年第1巻「最新のモードのリスト、男女それぞれの服装や家具」のみである。

同記事はタイトル通り、はじめに6頁ほど、女子服と男子服の話題を述べたあと、「男性と女性の服の流行について話した後、私はあなたに話したことがある全てよりも新しい、家具について話さなければなりません」と断ってから、流行している家具についての説明が4頁ほど続き、記事は終わる。

5-1から5-5までに述べたように、モードの記事では服飾について詳しく述べられているものの、それらが視覚的にわかる挿絵が毎回つけられているわけではない。デジタルアーカイブで確認できる限りでは、モードの記事に付録としてモード版画が付けられているのは1678年10月号のみである。

## 5. 結

『メルキユール・ギャラン』の値段や発行部数は分かっておらず、未だ不明な点も残る刊行物である。本研究で行った調査では、同誌におけるモードの記事の割合は極めて少ないものの、特に1680年代には定期的に設ける編集方針のもと、多く掲載されていたことが明らかになった。当時の貴族たちの服装が、王権の統制のなかで形作られたヴェルサイユの文化のなかのひとつと捉えれば、服飾を特集する記事が宮廷の総合情報誌の一部であることは当然だろう。貴族たちにとって重要な問題であるために、モードの記事以外にも服飾の記述が含まれるのである。また、同記事の内容に関する調査では、服飾特集記事の多くは「最新のモード」というタイトルである

Table 3 Volume in which a “mode article” appeared, title, and content

年	発行月 または 巻号	「モードの記事」タイトル	内容の構成
1672年	TOME 1	Liste des Modes nouvelles, tant pour les habillemens de l'un & de l'autre Sexe, que pour les Ameublemens	流行している服飾と家具についての話題
1673年	TOME 3	Conversation sur toutes les Modes	男子服と女子服で大きく話題が分けられているわけではない
1674年	TOME 6	Modes nouvelles	男子服と女子服で大きく話題が分けられているわけではない
1677年	7月	Modes nouvelles	男子服と女子服で大きく話題が分けられているわけではない
1678年	10月	Modes nouvelles	前書きの後、375頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1678年	12月	article des modes	男子服と女子服で大きく話題が分けられているわけではない
1679年	5月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題、353頁から男子服の話題
1680年	5月	Modes nouvelles	前書きの後、349頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1680年	11月	Modes nouvelles	女子服の記述の後、 「男性の衣服に関しては、新しいものは全く何もない。」
1680年	12月	Modes nouvelles	前書きの後、332頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1681年	4月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題、376頁から男子服の話題
1681年	5月	Modes nouvelles	前書きの後、381頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1681年	12月	Modes nouvelles	前書きの後、336頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1682年	10月(part1)	Modes nouvelles	前書きの後、冬の衣服について、男女で話題を分けていない
1682年	11月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題、369頁から男子服の話題
1683年	6月	Modes nouvelles	前書きの後、342頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1684年	9月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題、311頁から男子服の話題
1684年	12月	Modes	前書きの後、310頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1686年	6月	Modes nouvelles	前書きの後、328頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1687年	6月(part1)	Modes nouvelles	前書きの後、319頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1687年	10月	Modes nouvelles	フランス産毛織物に関する宮廷と服の話題
1687年	11月	Plaintes des Palatines contre la Mode, Dialogue	擬人化したパラティーン(Palatine)とモード(Mode)の会話形式
1688年	1月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題
1688年	5月	Modes nouvelles	前書きの後、295頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1688年	10月(part1)	Mode nouvelle	全身の衣服の詳細の記述ではなく、マフの話題
1688年	11月	Modes nouvelles	前書きの後、287頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1689年	10月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題
1693年	9月	Modes	前書きの後、女子と男子のモード版画の説明
1699年	4月	Article touchant les Modes nouvelles	春の衣服と夏の衣服についての短い記事
1699年	5月	Modes nouvelles	男子服と女子服で大きく話題が分けられているわけではない
1699年	6月	Modes nouvelles	前書きの後、247頁まで男子服の話題、以降女子服の話題
1699年	7月	Modes nouvelles	前書きの後、女子服の話題、仕立て屋の宣伝
1699年	11月	Modes	男子服と女子服で大きく話題が分けられているわけではない

ことがわかった。それらの記事は、主に男子服と女子服に分けて装飾や素材に至るまで事細かく上流階級の服飾について報じていた。加えて、男子服飾と女性服飾ともに同程度記載されていることから、同誌の読者層に性差はなかったことが考えられる。

本稿では取り上げることができなかったものの、たとえば、各国の大使や婚姻に際したレセプション

の記事には、個々人の服飾に注目している記述も多くみられた。それらの記述は誰がどのような装飾品をつけていたか、どのような色の服を着ていたかなど、装いに関して事細かな説明がされていることから、同誌は17世紀末の様々な場面での服飾を明らかにするための重要な史料であることは疑いない。挿絵とともに服飾が説明されているものは少ないも

の、説明文と視覚的な要素を組み合わせた服飾特集記事を掲載していた最初期の定期刊行物といえるだろう。

## 註

- 1) 同誌は『ル・メルキュール・ギャラン』*Le Mercure Galant*, 『ヌーヴォー・メルキュール・ギャラン』*Nouveau Mercure Galant*, 『メルキュール・ギャラン』*Mercurus Galant* と名称を変えながら、1714年まで刊行されていた。名称は異なるものの、掲載している記事の内容は同じであり、『ジャーナル辞典』*Dictionnaire des journaux* (1600-1789), 『ジャーナリスト辞典』*Dictionnaire des journalistes* (1600-1789) の電子版へのリンクも設けられている。
- 2) André Blum, *Histoire du Costume Les Modes au XVIIe et au XVIIIe Siècle*, 1928, Paris, p.100, <Le *Mercurus galant* de 1677 signale que pour un gentilhomme « l'élégance est dans la coiffure, la chaussure, la beauté du linge et la veste »>.
- 3) François Boucher, *Histoire du Costume en Occident*, Flammarion, 1996, Paris, p.228, <En 1672, 1678 et 1682, le *Mercurus galant* de Donneau de Visé publie des annonces publicitaires pour des marchands de mode et des gravures en supplément >.
- 4) Monique Vincent, *Donneau de Visé et le <Mercurus galant>*, Atelier National Reproduction des Thèses, Univ. Lille III, 1986, 2 vol.
- 5) Jean Sgard, *Dictionnaire des journaux, 1600-1789*, Paris, Universitas, 1991, vol.2. pp.846-849.
- 6) Susannah Carson, <L'Économie de la mode: Costume, Conformity, and Consumerism in *Le Mercurus galant*>, *Seventeenth-Century French Studies*, Maney Publishing, Volume 27, Issue 1, pp. 133-146, 2005.
- 7) Reed Benhamou, <Fashion in the *Mercurus* : From Human Foible to Female Failing>, The Johns Hopkins University Press : American Society for Eighteenth-Century Studies (ASECS), 1997, pp.27-43.
- 8) 内村理奈, 『モードの身体史 近世フランスの服飾にみる清潔・ふるまい・逸脱の文化』, 悠書館, 2013, p.213.
- 9) <http://gallica.bnf.fr/> (2019年10月8日)
- 10) <http://gazetier-universel.gazettes18e.fr/> (2019年10月8日)「Le *Gazetier Universel*」ではフランス国立図書館を含め、欧米諸国の図書館に所蔵されデジタル化されている史料のURLが一覧になっている。それぞれの刊行物に対して『ジャーナル辞典』*Dictionnaire des journaux* (1600-1789), 『ジャーナリスト辞典』*Dictionnaire des journalistes* (1600-1789) の電子版へのリンクも設けられている。
- 11) 2009年時点。
- 12) *MERCURE GALANT PREMIERE PERIODE : 1672-1674.*, SLATKINE (Genève), 1982, p.98.
- 13) 明確なルフェーヴルの生没年は管見では見当たらない。
- 14) 『ジャーナル辞典』ではドノー・ド・ビゼによる1672年から1710年までの刊行と、喜劇作家のデュフレニー (Charles Dufresny, 1657-1724) による1710年から1714年までの刊行で項目が分かれている。いずれも発行部数は記録されていない。
- 15) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Mariage du Fils de Monsieur le Premier President avec Mademoiselle Chalucot>, p.285.
- 16) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Mort de Monsieur le Chancelier & Son Eloge >, pp.150-153.
- 17) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Eloge de Monsieur le Duc de Coastin>, pp.148-149.
- 18) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Eloge de Monsieur le Marquis de Louvoy>, pp.153-156.
- 19) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Discours sur le Bajazet, Tragédie du Sieur Racine>, pp.65-72.
- 20) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Discours sur une Comédie de Monsieur de Moliere, intitulée les Femmes Sçavantes>, pp.207-215.
- 21) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Discours sur le Journal des Scavans>, p.287.
- 22) *Le Mercurus Galant*, TOME1, <Lettre en Vers de Gas, Epagneul de Madame la Marquise Deshoulières, à Monsieur le Comte de L.T.>, pp.268-271.

- 23) *Le Mercure Galant*, TOME1, <Entrée publique de Monsieur le Marquis de Vilars à Madrid>, pp.123-128.
- 24) *Le Mercure Galant*, TOME1, <L'Histoire de la Fille Soldat>, pp.131-147.
- 25) 前掲書 *MERCURE GALANT PREMIERE PERIODE : 1672-1674*. に掲載されている *Le Mercure Galant* の第4巻 (TOME IV) の目次ページはみられない。
- 26) Susannah Carson, *op.cit.*
- 27) *Lettre de Madame de Sévigné, de sa famille, et de ses amis VII 1680-1685*, Paris, 1823, Gault de Saint-Germain, p.144, <De Madame de Sévigné a Madame de grignan Aux Rocher, dimanche 4 août 1680 Nous allons demain à Rennes; on fait de si grands préparatifs pour nous recevoir, que je ne voudrais pas jurer que nous ne fussions nommées dans *le Mercure Galant*. Notre commerce ne sera point du tout dérangé de ce petit voyage; vous savez si cela m'est nécessaire >.
- 28) タイトル原文: Relation contenant toutes les particularités du Mariage de M. le D. de Bourbon.
- 29) *Mercure Galant*, 1685 (8), p.246 <Mademoiselle de Nantes avoit un habit de Brocard d'argent, chamaré de Dentelles d'argent plissées, & toutes semé de Rubis & de Diamans>.
- 30) ヴォルテール (著), 丸山熊雄 (訳), 『ルイ 14 世の世紀 4』, 岩波書店, 1983, pp.191-192.
- 31) 立木鷹志, 『女装の聖職者ショワジー』, 青弓社, 2000, p.184.
- 32) 柴田三千雄 樺山紘一 福井憲彦 (著), 『フランス史 2』, 山川出版社, 1996, pp.233-234.
- 33) 立木鷹志, 前掲書.
- 34) *Mercure Galant*, 1686(6), p.323, <Je viens à l'Article des Modes,dont j'ay accoutumé de vous parler deux fois chaque année.>.
- 35) 辻すみ, 文化女子大学図書館所蔵服飾関連雑誌解題・目録, 文化女子大学図書館, 2005, pp.127-128.
- 36) *Mercure Galant*, 1679(5), p.352, <Les belles Etofes sont or & argent sur des fonds bruns; & la plûpart des Dames qui sont de qualité & en porter, en ont des Habits.>
- 37) *Mercure Galant*, 1679(5), p.353, <On voit aussi quantité de Gaze brunes avec des fleurs or & argent,& des Jupes & des Manteaux tout couverts de grandes fleurs naturelles,avec de fort grands branchages.>.
- 38) *Mercure Galant*, 1679(5), p.353, <Il n'est pas moins difficile de vous parler des Habits des Hommes.>.
- 39) *Mercure Galant*, 1679(5), p.354, <Les Vestes qu'on porte à la Cour sont plus courtes que le Juste-à-corps. Cependant on en porte de plus longues à la Ville; ce qui fait un tres-vilain effet, sur tout lors qu'elles sont blanches.>.
- 40) *Mercure Galant*, 1680(12), p.330, <Il vous faut entretenir des Modes.>.
- 41) *Mercure Galant*, 1680(12), p.330, <La plus grande parure des Hommes consiste en Brandebourgs & Manteaux, qu'ils portent fort riches. La plus grande partie des Manteau est brodée.>.
- 42) *Mercure Galant*, 1680(12), pp.330-331, <Ils sont de Camelot de Bruxelles, gris, ou d'écarlate, & doublez de Panne ou de Pluche de différentes couleurs. La couleur de feu est celle qui est le plus à la mode. Les Brandebourgs se brodent aussi, mais avec cette diférence, que la Broderie est séparée, & faite en maniere de larges Boutonnieres. Ceux qui ne veulent point de Broderie, font mettre des Boutonnieres de Point-d'Espagne d'or. On voit aussi quelques Brandebourgs unies de Drap de Hollande couleur de feu, doublées de Renard.>.
- 43) *Mercure Galant*, 1680(12), pp.331-332, <Quant aux Habits, on en porte beaucoup d'unis, de Draps couleur de Castor. Il se fait de ces Draps d'une beauté surprenante, & qui sont à deux envers. Ces sortes d'Habits sont ordinairement brodez, aussi-bien que les Canons, ou de Point de France toujours évidez. On fait aussi des Habits de ces beaux Draps, avec des Bas roulez. La dou- blure en est de Panne à carreaux de toute sorte de couleurs. On met avec ces Habits des Vestes de riches Etofes de soye, brochées de cordonnet.>.
- 44) *Mercure Galant*, 1680(12), p.332, <Je passe à ce

- qu regarde les Femmes. >.
- 45) *Mercure Galant*, 1680(12), p.333, < Les Manchons brodez sur des Pannes de toute sorte de couleurs, qui ont tant regné, depuis deux mois commencent à estre moins à la mode, & on les remplit tellement de noeuds de Chenille ou de Ruban, qu'on n'en sçauroit distinguer l'Etofe. >.
- 46) *Mercure Galant*, 1680(12), pp.333-334, < Les Femmes, au lieu de Robes de Chambre, portent chez elle de grandes Robes que l'on appelle Innocentes. >.
- 47) *Mercure Galant*, 1680(11), p.348, < A l'égard des Habillemens des Hommes, il n'y a rien du tout de nouveau. >.
- 48) マフ (manchon) : 毛皮でできた筒状の防寒具。
- 49) *Mercure Galant*, 1693(9), p.201, < Mr de Saint Jean, Peintre, qui a donné au public tant de belles Figures habillées à la mode, en a fait graver six toutes nouvelles ; sçavoir, quatre Femmes & deux Hommes. >.
- 50) *Mercure Galant*, 1693(9), p.204, < Sa Robe de Chambre est pendante sans ceinture >.
- 51) *Mercure Galant*, 1693(9), p.204, < Elle a un Corset de Marseille fait à la mode, auquel on a donné le nom de Rspirant, Parce que ces sortes de Corsets sont entr'ouverts. >.

